

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成14年
7月号

毎月23日発行
通巻383号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成14年7月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



天神さんの土人形(文・3頁) 青山 法義さん撮影

平成4年9月6日 大倭神宮月次祭での法話より(下)

宗教は、人間性を向上させる道

法主 矢追 日聖

腹の立たない
人間になること

大倭へ来た人に、私が心靈治療をして病気で治る場合があります。それで喜んでるのは結構なんやけれど、これは医者が治療しているのと一緒です。

信仰というのは、病気が治ったからありがたいのと違うんですよ。病気が治っても、最後はみんな死ぬんやもの。ただ一時的に良くなったというだけなんです。自分が不始末、不養生をしてね、いろんなこと苦にしてください。心配して神経痛めたり、また酒呑んでタバコでもパカパカ吸って肉体を悪くしたり、自分で勝手に病気を作っているような、そんな場合は医療で治ります。しかし死ぬまで生きるだけなんです。

だからあなた達、病気が治ったからありがたいと思われると困るんや。宗教というのは、生きている時に、個人個人が自分の人間性を向上させていく道なんです。分かりやすく言うと、腹の立たない人間になることやねん。

腹の立たない人間になつてほしい。けれども利害関係で誰でもじきに腹立つわな。優越感や劣等感を持っている人は、みんなケンカするねん。仲良ういかれへん。

生きている時に、仲良うするような人間になつてほしいんや。すると靈界へ行つても、良いところへ行けるんです。悪いところへはめつたに行かへんねん。お経でもみんな人間として向上するよ

うに説いているんです。「般若心経」に、色即是空というのがあります。そんな空の心や、欲のない人間にめつたになられへん。けれども、そうなりなさいと説いているんやからね。

神さん拝んでご利益下さい、幸せにして下さいとか、病氣治して下さいとかみんな言うてますが、そんなことで神さんを拝むのは全部、邪道です。

我々は神さんが拵えた人間やから、死ぬようにできてるねん。それを助けて下さいと言ったって、神さん、みんな横を向きますよ。お前、死ぬようになってるやないかと言われるだけや。

あんた達、どこのお宮さんに行っても賽銭箱に金を放り込んで、パンパンと手をたたいて拝むけど、神さんは横を向いてます。

大倭は賽銭箱がないでしょ。そんな河原乞食にするみたいなのはせんとしてくれと、うちの神さんが言うんですよ(※3頁「表紙写真について」参照)。ということは昔、平安時代に、河原でいるんな芸をやるのと、見てる人が鳥目を紙に包んで投げ銭したんやね。心あつて供えるのであれば、人間らしくちゃんと供えろと言われるんです。

しかし神さん自身はお金使わへん、使うのは人間やからね、私を使うんやから。結局、賽銭をなれば神さんに供えても横向いてるから、何にもならへん(笑)。

神さんのことにしても何にしても、うちでは誰々が何万円寄付したとか書いて出したことありません。これしたら神さんに怒られますねん。金を寄せようと思ったら一番良い方法なんやけどね。お寺やお宮さんに行くと、よう書いてあるやろ。すると、あの人は百万円したから私は二百万円しようというふうには、人間というのは競争するんです(笑)。

そのところを見ても神さんは絶対いかんと言

ます。みんなの見えるところで寄付したら、人の恨みをかうと言うんです。あの人は金があるからや、私は寄付したくても金が無いからできないとなつてくるわな。するとその人の想念が相手に向かつて行くから、寄付した人の徳が薄くなる、かえつて悪くなる、だから書かないでおけと言います。これは慈悲やからと。

この大倭神宮の社務所を建てるのでも、みんなが金を持ってきて建ててくれます。私の金とちがうねん。ここだけやなしに大倭のものは、ほぼみんなそうです。けれどもなれば金を出してもらっても、誰がいくらとか絶対に出していません。そんなことをしたら、私自身も命がありません。

最近いろんな宗教が流行っておるけれども、神さんを拝んで宗教団体に入つて、幸せになるというのは、こんなもん愚の骨頂なんです。そんなことを信じるというのはいくことが一番大事なんです。

腹の立たない人間になろうと思つたら難しいです。人間は利害関係持つてるし、喜怒哀楽という感情を持つているし、社会の中において腹の立たんような人生の歩み方をしようと思つたら、並大抵やないと思います。

私は今日までいろんな経験してますけど、また腹を立てた経験ないんです。それはね、腹の立つようなことに、まだぶつかってないんです。私も人間やから人の腹の立つ気持ちも分かれば、欲も得も分かっています。けれども腹の立つ経験ありません。それだけ私自身が恵まれてますねん。

自分のものは

何一つないことを知る

結局、ものの解釈の仕方なんです。例えば、私

に不動産があつても、死んだら後はもう所有権しまいやもんね。これは、神さんが造つてくれた地球やから、人間が自分のものやと思う考え方がそもそも間違つておるんや。

あんた達考えてみい、自分のものやと思つてこの肉体が、灰になつてしまふ、腐つてしまふ。着ている物でも死んだら自分のものやないし、お金を何億円持つていても、死んでもたらみんな他所へいつてしまつて我がのものと違ひます。

そうしたら、自分のものというのは何一つないんですよ。ただ自分のものと思うのは自分の心だけ、それ以外に自分のものはないんです。

厳密に考えたらね、それが信仰する原点やと思う、自分のものがないということが。そこからものを考えた時には、人間みんな仲良うなり得ると思うんやね。

ところが人間は我がままで、自分のものという考えを持つているから、いろんな欲が出てきて、ケンカや争いを起こしたりするんやな。

あんた達は、ここにある空気吸うて生きてるのやけど、自然の摂理というものは、お前はこの空気吸うたらあかんで、お前は吸うてもええでという差別は絶対ないんです。みんな平等に、その人の体質に応じて空気吸うてるんや。天地自然というものは、そんな平等なものなんです。

自分の心を大事にせんといかん。その心というのは靈魂のことやけどね。

肉体がなくなつても、自分の靈魂は靈の世界で生活しています。その時、肉体を持つておる時の自分の心の状態が、死んだ世界で関係してきます。だからできるだけ人間として向上していくと、死んだ世界でも楽になれるんやね。

誰かが死ぬと、私のところに、この人は靈界ではどうしてますかという相談がよくあります。私

はたいていその場で即答するんです。じーつと見
ておつたら分かります。霊界には段階があるから、
良いところに居れば、この人は生きている時にえ
え人やつたなと分かる。

仏教の言葉で修羅道というところがあるんやけ
ど、そんなとこで苦しんでいる人もありますよ。
ふつと見てあげたら、金、金、金の欲ばかりで
死んだ人は、我が残した金にまだ執着がある。お
金で苦しんでいる姿で出てくるんやで。

だから生きている時の心の状態が一番大事な
んです。自分のものは何もないという、欲のない人
間になってほしい。まずその心になってもらつた
ら一番ええと思います。

自分のものは何一つないということ考えた時
には、人生は儚いし、何のために生きているのか
分からんと思うかもしれんわな。けれども死んだ
後の次の世界があるということを見せんとあか
んのや。それがために、今生きてる時に準備を
しないとけない。

だから私は、どんなことがあっても腹立たへん。
ものの利害損得とか優越感、劣等感とか、普通の
人が苦にするようなことを私は何にも苦しませ
ん。お陰さんで私も八十一歳に入ってます。あつ
ちこつち弱いとこばつかり、今も喉が悪くて声
出しにくいんやけれど、まだ生きておるんです。

私の肉体は、県立の中学は体格で落とされて私
学ばかりやし、兵役はお前みたいな者一年も命あ
らへんとはねられて免除、そんなんです。だから
神さんに逆ろうたら、すぐ霊界から迎えに来るよ
と言われるもの、できるだけ正直に生きているん
やけどね。今、八十一歳まで生きてるから、一
体どういことかなと思議に思つてしようがな
いんです。

小学校では校医さんに、あんたの命は四、五年

しかない言われたこともあるし、私の人生では死
ぬということがつきまとつておつたんやね。子供
の頃からそういう人生観がありました。

十七、八歳位になつた時には、あんた達が聞こ
えないものが聴こえてきたり、肉眼で見えないも
のが視えてきたりしたんです。誰にも相談しな
いし、自分で精神分裂かなと思つてた。けれども自
分の一つの訓練をする意味において、霊界の人が
ものを言いに出てくるんやな。今はもう出てきま
せん。自分でもう分かつているからね。

今、私が大倭で社会福祉の仕事をしているのも
ね——救護施設と特別養護老人ホームと身体障害
者療護施設と、三種類の行政の福祉施設です（※
当時）——光明皇后さんが出てきて、やつてくれ
と言われるからやつてるんです。そういうことも
霊界の人と話し合いをしながらいままでやつてき
ておるんです。

大倭に来る人に私はいつも、神さん拜んでご利
益もらおうとか、幸せになろうとか、そんなこと
を絶対に思つちやいけないと言ふんです。人間と
して向上するために来て下さいと言ふんです。
大倭教を信心したから幸せになるなんて思つて
もろたら邪教になりますからね。

人間としての心さえ出来てきたら仲良うなれる
んです。

ところが日本の一般の宗教というのは殆どが、
この宗教に入つたら幸せになるよと、嘘だまして
人を寄せているわ。結局は、お金を集めること
になつてるんです。いわゆる宗教企業やね。

宗教みたいなもの抜きにしてもよろしい、私個
人と皆さんと仲良うしていこうと、いつも言うん
です。みんな仲良く、人間と人間の結びつきが親
密になつてこそお互いに幸せになるんですよ。神
さんが幸せにしてくれるのと違いますよ。自分で

幸せにやつていけるような人間になつていくのが
大事なんやから。

今日は初めての方もいらつしやるようなので、
こんな話をしました。あとは相談があつたら聞き
ますよ。病気のことで、どんなことでもかまへ
ん。これは私個人との話し合いや。神さんが言う
んやないんですよ。だから宗教には関係なし。皆
さん方が幸せになつてもろたらいいんやもの。け
れども易者とか八卦見やとかいう気持ちで来て
もろたら困るねん。

まあまあ、ホラを吹きましたけどよろしくたの
みます。仲良うしましょうや。（拍手合掌）

表紙写真について

岸野春子

菅原園北側の「土師部の杜」が野見宿禰の住居
址であるとは、法主様に取材したことがある。菅
原道真は野見宿禰の子孫で、この近辺に菅原氏の
故地があり、菅原園の名称もこれによるといふ。

菅原道真は、日本全国で信仰される天神さん
になつた。表紙の天神さんの土人形は今年三月、大
倭病院での作品展に展示されていた。岡山県真庭
郡美甘村の田中朝晴さん（八十四歳・湯浅晴子さ
んのお父さん）が生まれた際に、男の子にそつう
う習慣がある地方で、贈られたものという。

昔、激しい雷鳴があつた夜、法主様が「今日は
天神さんの日や」と言われたのを聞いたことがあ
り、それが七月二十五日だったのを覚えていた。
これは菅原道真の亡くなつた日だとか。また今年
は菅原道真公没後千百年という催しも多かった。

そんなアレコレで、「七月号の表紙や！」と、
ひらめいたらしい。偶然、本号二頁に「賽銭箱を
置くなと言われた」話が載ることにもなった。こ
う言つたのは菅原道真さんだったと、杉本順一さ
んは法主様から聞いたことがあるそうだ。

日韓合同

2回目の中国ワークキャンプで考えたこと

FIWC関西委員会委員長 劉^ゆ成^{そん}道^ど

ある社会とある社会を結ぶ役割

中国広東省広州市付近に、ヤンケン（楊坑）村というハンセン病快復者の方々が40名程度集まって生活している非常に小さな村があります。2月19日から3月1日にかけて、僕たち、FIWC関西委員会（12人）と韓国のピースキャンプ（12人）はそこでワークキャンプ活動を行いました。今回はシャワー室設置ワークを中心に活動しました。その他にも夜に茶話会という村の方々との交流会をキャンプ期間中に3回行いました。

今回の活動がどんな感じだったのかを一言で言えば、『ワーク』『キャンプ』であったということが言えると思います。あくまでも僕の観点から言えることです。



まず、「ワーク」とは、シャワー室設置ワークを指すのはもちろんのことです。そしてもう一つ特筆すべきことは僕たちの活動が、ある社会とある社会を結ぶ役割になりうるということ

です。

今回はキャンプ期間中に、広州市街地に出て国内にワークキャンプ活動を広めようという活動を行いました。はじめる前はどうか、逮捕されるのではないかと心配でしたが、特に何も起こらず、無事に行うことができました。道行く人は日本と変わりなく怪訝そうに過ぎ去っていく人もいれば、熱心に話を聞いてくれる人もいました。また今回はキャンプ期間中徐々に他の村に住む子供たちがヤンケン村に集まってくるようになりました。幾人かのキャンパーが村の周辺を探索し、別の村を発見、その人ととの接触、また、村の横の道を通学路として使っている子供たちとの接触が原因でこういう現象が起きたように思います。

キャンプアウトする前日は村の方々、僕たち以外にたくさんの子供たちと一緒に（＝写真。日本語・ハングル・中国で歌詞が書いてある）、非常に盛大な茶話会「ヤンケンの夜」を行うことができました。今まで隔離されていた村が、外部から子供たちがやってくることによって徐々に村が開かれていくことになるかもしれません。その力がワークキャンプ活動にはあると思います。

僕たちは主に大学生を中心とした、土方に関してまったくの素人集団でありますから、決しているものは作れません。いい物を作るのであればお金を集めて専門の業者に任ずるほうがいいものを作れます。だからむしろ村の方々にとつてわけがわからない集団が来ることによって社会が結ばれていく、この方が重要な「ワーク」ではないのだろうかと思いました。

人間臭さを感じられる場

次に「キャンプ」というのは、労働、寝食を共にすることから得られる「人間臭さ」を感じられる

る場ということですが。僕が思う「人間臭さ」というのは、共に笑い、助け合うことからでくるあたたかさから、社会的立場、考え方の違いから生まれる、もめごとや差別・偏見といった悲しさ、醜い部分までを指します。

僕は中国語がまったくできないので、村の方と直接深い話をできませんが、キャンプ期間中、中国語が話せるキャンパーから伝え聞いた話で、村人の中でいじめがあるということが分かってきました。昨年同様、ヤンケン村の方々には非常に僕たちに対してあたたかく接してくれ、いじめなどこの村では考えられないかと思っていたのですが、僕たちが日頃行っていると同様、村でもそういうことがあるのかと驚きました。また、キャンプ期間中1度だけではありませんが、僕は村の会長さん宅で夕食をご馳走になりました。夕食は村全体の食事を担当しているおばあさんが作ってくれて、彼女も一緒に時間を過ごしました。食事の最中、僕は一緒にその場にいた中国語が話せるキャンパーを介しておばあさんに質問をいくつかしました。おばあさんは途中、僕の質問に答えることをためらいました。そしてつらそうな顔をされました。僕は悪い事をしてしまったと思い、少し後悔しました。いつも笑顔であたたかく接してくれるおばあさんにも、やはり人には言いづらい過去があるのだと少し悲しくなりました。

考え方の違いからキャンプ準備時、ワークのすすめ方でもめることも少しありました。一方キャンプ期間中はワークの合間、夜、焚き火を囲いながらと本当によく歌を歌い楽しみました。歌を歌うことで生まれる一体感というのは本当にいいものです。お酒もたくさん飲みました。夜は遅ければ2時、3時まで飲んでいました。キャンプ後半からは夜中は毎日バーベキューをしてたくさん

肉を食べました。お酒を飲みながら、肉を食べながら仲間たちと一緒に過ごす時間は本当に充実していて、今でも心に強く残っています。

僕たちがキャンプアウトする時、村の方々から「また来年！」と言われたり、涙を流して僕たちとの別れを惜しむ姿を見て、意味のある活動であったと思えるし、また今度もキャンプに行こうという気持ちになりました。10日間という短い期間ではあったけれども、本当に充実した時間を過ごすことができました。

登美谷の名残 第8回

「三碓」町名の由来

矢追 隆 義

前回記述した通り十世紀の頃より、鳥見の郷が鳥見の庄に変わり、さらに上鳥見の庄は二名庄、中鳥見の庄は三碓庄、下鳥見庄は中村・大和田庄などとなる。鳥見の庄の名称が記録として現れるのは、延久三（一〇七一）年、興福寺『雑役免帳』である。

中鳥見の庄の「三碓」の地名の源については、確たる根拠となる記録は見付からないが、伝説として伝わっている由来がある。

『大神之本家・小野姓・真弓家之系図』によると、二代目の小野妹子の住まいが中鳥見庄に在ったという。日常の穀類などを搗くのに、碓を三個使っていたが、たまたま聖武天皇が鳥狩りに当地へ来られた際にこの三個の碓を見られて、里名を「三ツ碓」と名付けられた、という説が、その一つである。

次は、添御県坐神社（現在、三碓町の氏神）

こぼれずみ

故鈴木茂美さんを送る

丸木美術館にて

昇ちゃんこと中村昇次さんを、二十数年前に東京から大倭にはじめてつれてきた、当時は聴覚障害者の施設の職員だった鈴木茂美さんが、去る六月七日に五十三歳の若さで帰幽されたことは前号でお知らせした通りです（お詫び）。お名前を、宏美さんとしたのはまちがいでした。その鈴木さんを偲ぶ会を、彼が事務局長を務めていた埼玉

の根聖院の境内に、高さ一メートル、幅一・五メートル位の自然石があり、上部面に三つの「くぼみ」が見られ、これが三碓の名称の出所だという説。

三番目は、「水臼」から出たという説である。『日本書紀』の推古天皇十八年に、高麗から来た僧・曇徴が「碾磑」を天皇に贈ったとある。即ち曇徴は「能く彩色及び紙墨を作る、并せて碾磑を造る」との記事である。この碾磑が変訛したというのである。

尚、三碓公民館前に三碓村名の起源を刻んだ碑が建っている。

参考

「添御県坐神社」とは、皇室の食糧をまかなう土地の安全と、農作物の豊饒を祈る神社で、すでに十世紀初頭の『延喜式神社名帳』に載っている。歌姫町にも同じ名前の神社がある。祭神は何れも、武乳速命、速須男命、櫛稲田姫命である。また、昭和四十一年の本殿修理の祭、永徳三（一三八三）年の墨書銘が発見されている。

県の丸木美術館で開くというおさそいを受けて、筆者はちようど上京する用事もあったので、去る七月十三日に同美術館まで足をのびしました。

丸木位里・俊夫妻が描いた大作、「原爆の図」を展示するユニークな美術館に因しては以前から興味があったのですが、実際に行ってみて強い衝撃を受けました。原爆投下の直後に位里さんのご両親が住む広島に入ったご夫妻は、被爆地の地獄を目のあたりにして、それを描き切れることを使命としてご自分達に課したのでしよう。それらの作品は、作品というより鬼気迫る現実そのものような迫力をたたえています。人間はここまで悲惨になり得るということを、目をそらさずに表現したこれらの作品には、かえってすがすがしささえ感じられました。丸木ご夫妻は、その後、「南京大虐殺の図」や「アウシュビッツの図」や「沖縄戦の図」など、二十世紀に起きた人類の悲劇を描き続け、世紀末に帰幽されました。

これらの絵を観ながら、鈴木茂美さんが、この静かな川のほとりの美術館で何を志していたかを理解できたような気がしました。二百人以上も集まった「偲ぶ会」で家族や友人、知人達が語る鈴木さん像は、他人を暖かくうけとめ、多くを語らず愚痴を言わず、大きな構想力を持ちつつ着実に日々の仕事をこなしていくという頼りがいのある男……といったところでした。ある日、右翼の過激派が街宣車を持ちつけ、「南京大虐殺の図」を撤去せよと迫った時、鈴木さんは一歩もひかずに彼らを引きとらせたというエピソードも語られました。

中村昇次さんとのつながりで大倭にかかわりを持った鈴木さんですが、彼のような頼もしい魂が、現界でのさまざまな課題に後髪を引かれずに安らかに幽界に帰られることを祈るばかりです。

（岸田 哲）

平成13年11月11日 大倭会文化講演会 於：大倭大本宮拝殿

アニミズムの世界 — 沖繩・龍神・・・ (4)

— 故山尾三省さんを偲びつつ —

講師 野本三吉氏

宮古島

その時、正確に数えていませんでしたけれど、そんな洞窟を何十とまわって、びっくりするようなことがたくさんあったんです。

砂川真長さんが、「宮古島はね、昔、太平山とよばれていてね、島は小さいけれど、何か不思議な秘密が隠されているんだよ。クイチャーという予言の歌が昔から伝わっているけどね、この中に、クマヌバーズの予言の歌がある。これは、「宮古史伝」という本の中に書かれてあるんだがね」と教えてくれました。その本が絶版になっていたのですが、この間ぼくが三十数年ぶりに宮古に行きましたら、何と復刻されていました。そして、知り合った方が宮古市役所の職員でその担当者だったので、一冊頂いてきまして、帰ってから夢中になって読んでいます。宮古島に残っている様々な伝説や言い伝えを、全部伝えていた人がいたのです。その人は、もうとうに亡くなったし、本の復刻をしなければならぬと考えたんですね。

クマヌバーズの予言の歌は四番までありまして、一番は、「上は下なり、下は上なり」です。つまり、本来は上に来るものが下に来ている。下にあるものをひっくり返していかなければならない。皆がおし込んでいるものが、実は表に出てこなければいけないのだと言うのです。

二番は、「貞操観がなくなる時代が来て、淫乱の世になるぞ」。つまり性の問題が非常に乱れてくる。これはどういうふうに解釈していいか、フリーセックスなんかがいいことだと考えるのかどうかですね。

三番は、「人と人との信頼関係がなくなってしまつて、人は互いに反目し、孤立してしまつて時代がやつてくる」。これは、大昔に言っているわけですからね。人間関係がどんどん切れてしまひ、互いに反目するような時代がやつてくる。

そして四番目に、「そういう乱れた世の中になると、それを救うために南の島から、頭髮の長い女の人が白い船に乗って、白い着物を着てやつてくる」と言うんです。

砂川真長さんは、「宮古史伝」を読んでいてこの歌を知っていたわけですね。比嘉ハツさんが腰の下まである長い髪で、白い衣服を着て初めて来た時、「ああ、宮古史伝は、今、起こる」と思っていたんですね。そしてもう、何もかもわらず一緒に歩いたわけですね。

精神的におかしくなった人がいると聞くと、その近くを探すと、ものすごい鍾乳洞があつて、遺骨がたくさんある。それを清める仕事を一緒にやってやりながら、これはただ事ではないと感じた。

また、「宮古君が代」という、いつ頃、誰によつて作られたものか分からないが、宮古島に伝わる歌がある。「真太陽(マテダ)」という本当の太陽が根底(ネビシ)におし込められてしまつて長いこと経つが、これから世に出て地上を照らさねばならない。その本当の太陽は、この小さな島から昇るのだよ」という意味の歌です。だから隠されてしまった本当の太陽は宮古群島のどこかにあるのではないか。その時は、砂川さんは、「大神

島に、ぼくらはあると思つているんだがねえ」と言われました。この大神島というのは、女性以外誰も入れない所だそうなんです。この間、大神島のことを調べました。観光地にしようということで、車が通れるように周りに道路を作ろうとしたら、山崩れがありまして、その作業に携わっていた人が亡くなつてしまつたそうです。あまりの恐ろしさにこれは中断されたということです。神秘的なものというのはやはり残つている、と思つているところです。

ある洞窟に入つていく時、そこは海の中からしか入れないところで、引き潮になつてその洞窟の入口が見えてくると、こつちから泳いでいくんです。ぼくはあまり泳ぎが得意でなくて。生和さつちゃんは泳ぎが上手ですね。あ、また妙なことを思い出しました。昨日、鳥取の倉吉に行つていたのですが、時間があつたのでぶらぶら歩いていました。倉吉の隣が赤崎という漁業の町なんです。そこが、生和さつちゃんの生まれた所なんです。だからさつちゃんは泳ぎが上手なんです。こつちは必死になつてたどり着く。小さな穴があつてその中に入る。新しく生まれ変わるために胎内くぐりというのは他所でもありますが、具志堅用信さんというお父さんの役をやる方と一緒に入りました。すごい細い所なんです。もうギョウギョウです。両側が白く、ちようど乳房が垂れているような感じなんです。出て来れなくなつてもう死んでしまふんじゃないかと思つた。これは産道を通つていくわけですね。必死になつて、中に行きますと広い空間があつて大きな池のような所がありました。そこでよく水浴びしなさいと、これは羊水だと言つてくれます。そしてハツさんはいろいろなお話をしてくれました。ぼくはまた洞窟から出てくるわけです。その時、巫女さんたちはみんなおなか

をよじって苦しんでいるんですよ。なかには、もどしている人もいる。何しているんだろうと思ったら陣痛なんです。「あんたが日本から来て、新しく生まれ直すのをみんな産んでいるんだよ」と言っただけは「ありがとう」と本当に感謝しました。その時に女性の方はみんな実際にもどしていませんからね。何とも言えない思いになりましたね。生まれてきたことのありがたさを思い出した。

これはある意味で襖だ、襖の原形がこれだよと言われました。

具志堅さんが入った時のことが『いのちの群れ』にこう書いてあります。

入口は狭いが中はかなり広く、しかも人間の内臓が胎内のように入りこんでいて、まるで胎児に戻ったような錯覚に陥る。「三吉さん、これが地球母神の胎内ですよ。新しく生まれ変わるんですからね、よく母さんのおなかの中を見ておきなさい」。ハツさんはそういって、さまざまの形をした岩を指さしてくれる。

お母さん役のハツさんと一緒に入った洞窟もあります。だんだん、ぼくは自然そのものと自分と一緒にになって、僕が痛いと思うと、岩も痛いと言っている感じがしてくる。ある洞窟に入った時、そこは亡くなった方がたくさんいて、もう清めてある所でした。きれいな気持ちになって出てくるのかと思つたら、ハツさんは突然立ち上がつて胸をかきむしるようになって叫ぶ。

忘れてくいるなア、われらの心オー。

戦いの苦しみイー、二度としてくいるなよオ。

燃ゆる島々、死する人々、二度とつくいてく

るなアよオー。
戦いなき世は、母の心ぞ、よく知れよオ。

これを、もうふりしぼる様にして叫ぶ。ぼくはそばでずっと聞きながら、ノートも何も持っていませんでしたので部屋に戻つてから夢中でこれを書きとめました。もつといくつか言つたような気がしますが。

この言葉を見ていると涙がとまらなくなるんです。亡くなっていった人達は、このすばらしい洞窟の中で息絶えていったんだ。しかも火炎放射器なんか浴びているわけですからどんな思いでいたのか。その時、憎らしいアメリカに何かをしるか、日本に何かをしると言っているのではなくて、二度とこのような争いをしてはならない。それが母の心だというふうに、比嘉ハツさんの体を使つて言っているわけです。

(続く)

こだまことだま

▼静岡県袋井市 石垣清水

日元さん、お元気そうなお手紙、ありがとうございます。日頃のご無沙汰をお許し下さい。

私の方は、「野草こども診療所」もこの2月から5年目を迎えました。また無農薬野菜と自然食品の店「野草広場」も、この7月で3年目にはいります。少しづつですが、地域に定着してこれたことをありがたく思っています。

診療所は、最近は大人数の方も多く、時節柄、心を病む人達を診察する機会も増えてきました。月次祭の折に、相談に答えていらつしやうした法主さんや母さんの姿を思い出して、我が身の未熟さを痛感しております。

診療所で患者さんを診ていると、大人も子供も

元気がなく、いのちのエネルギーが以前ほど感じられなくなりました。病んだ人達、求めている人達が立ち寄り、そしてそこで癒され、旅立つて行く、そういう場の必要性を日々の診療、生活の中で感じております。野草こども診療所、野草広場の開設がそうだったように、必要とあらば、時期がくれば与えられると思っております。

日元さんも今年は米寿ですね。大倭草創期からの生き証人として、くれぐれもお体を大切にお元気で過ごしてくださいませ。また、大倭へも伺わせていただきます。

(5月24日)

▼青森県弘前市 石田勝利

三輪の出雲が発祥の地と分かり、大変興奮してしまいました。八岐の大蛇伝説の意味を知り喜んでおります。遠い国から日本へ来た須佐之緒命はヒタイト人(現トルコ)で鉄器製造を伝えた人ではないでしょうか。日本海側に熊野神社が多く、サンダラポッチ伝説・タタラ・最近では「もののけ姫」、弘前の白神がモデルです。(7月11日)

東光大祭と祖霊祭のご案内

日時 平成十四年八月二十三日(金曜日)

午後一時二十分より

東方の碑 拜礼所にて

午後二時より

大倭大本宮拜殿にて東光大祭、奥津斎庭にて祖霊祭が行われます。

今年も暦の都合で、東光大祭の翌日が弥栄おどりの日になりました(8頁をご覧ください)。遠方の皆さんも両方に参加して頂きやすい日程になっています。

あじさい日誌

6月12日 岡山県美甘村の江田圭一さんとそのお母さんが来邑されました。

6月14～16日 町田市の得田壽之さん、久しぶりの来邑。

6月15日 大倭神宮月次祭。

6月16日 大倭会第2771回文化行事で、万葉文化館・飛鳥寺を訪ねました。参加者13人。

この日、杉本順一・志津女は、奈良市の溝口富士男・ツヤ子夫妻と一緒に、岸和田市にある鳥取部萬さん（崇神派の物部守屋の側で、崇仏派である聖徳太子と戦って敗れた）のお墓を訪ねました。また萬さんは体を八つに裂かれ、その頭部を飼っていた白犬がくわえて逃げたという話で、その白犬のお墓も訪ねました。岸和田市の溝口省吾・邦子夫妻が、案内してくれました。

大倭会第272回文化行事 秋の一泊旅行ご案内 富士山麓に日蓮を訪ねる

日時 10月27日(日)～28日(月)
行き先 身延山
宿泊 下部温泉郷 下部ホテル
費用 3万5千円ぐらい

全行程バスで廻ります。皆さん今から予定しておいて下さい。

問合せ 世話人 湯浅芳郎
TEL 0742-48-3389

6月29日 30日 本紙では法主様との出会いについて色々な方から話を聞いておきたいと思っています。今回、岡山県美甘村の田

夫妻や埼玉県の小林千賀子さんにも会われたそうです。
7月6日 7日 F I W C 関西委員会は、今夏の韓国ワークキャンプの事前プログラムとして交流の家でお泊り会。光明園から牧野正直園長と国賠訴訟の原告の一人だった中山秋夫さんに来て頂いてのお話もありました。
大倭安宿宿では
7月8日 9日 司法修習生8名が修習の一環として各施設で介

【お詫び】先月号の記事で、杉本夫妻と一緒に、八尾市にある物部守屋さんのお墓を訪ねたのは、奈良市の溝口富士男・ツヤ子夫妻の方だったそうです。
6月22日 奈良パークホテルで邑交会が開かれ、紫陽花色の各活動体の色々な報告が行われました。
6月23日 大倭大本宮月次祭。月次祭ではいつも祥月命日にあたる縁りの方々のお参りをしていきますが、この日は沖繩戦戦没者の慰霊も行われました。
6月24日 大分から奈良に移られる治郎丸さん一家が、新居が完成したとのことで来邑されました。
6月28日 30日 青山日元さんが息子の青山法義・元子夫妻・孫の美子都ちゃんと一緒に、群馬県安中市の新皇教宮を訪ね、故中村文太郎翁のお参りをされました。また三浦半島の走水神社にも三度目のお参り。得田壽之

中一三さん(74歳・湯浅晴子さんのお母さん)にお話を聞くに当たり、まずは法主様が鎮められた霊人にお参りしてから、ということで岡山に出かけました。編集部6人(泉・房・P・T・春・千)と杉本志津女・松本モトさんもこの機会に一緒に、山紫水明の美甘村で、法主様も泊まれたという「しげや」に一泊、大いにリフレッシュしました。
7月5日 米作りをされている「島根ふるさと情報アイティ協同組合」の安部忠宏さんが、友人の西宮市の松岡好子さんと来邑。教務本庁で日元さん・杉本さんと歓談されました。
昇ちゃん(70歳の誕生日祝いで回転寿司に連れて行ってもらいました。じーっと見つめる小学生をにらみ返して一触即発！)になつたらしい。
7月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で邑倭の会が開かれ、邑の多方面についての報告や検討がされました。
7月6日 7日 F I W C 関西委員会は、今夏の韓国ワークキャンプの事前プログラムとして交流の家でお泊り会。光明園から牧野正直園長と国賠訴訟の原告の一人だった中山秋夫さんに来て頂いてのお話もありました。
大倭安宿宿では
7月8日 9日 司法修習生8名が修習の一環として各施設で介

護体験をしました。

(菅原園)

7月10日 七夕の集い。雨のためサニールームで、笹に願い事の短冊を飾り、笹と同じ所で採ってきた竹を工夫して流しそうめんをしました。

(須加宮寮)

6月30日 家族交流会。福祉事務所の方やボランティアも交え食事・カラオケを楽しみました。(長曾根寮)

6月21日 定例懇談会。今回も主に食事について話しました。(八重垣園)

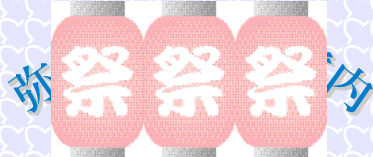
6月19日 5月より始まった俳句クラブに参加者9名。

「八十路より始めし俳句五月晴」

「梅雨冷えに熱きコーヒー独り呑む」

編集後記

▼7月8日偶然、東京新宿御苑近くの喫茶店で、双葉館の見田さん高橋さんに会い、びつくりしたしうれしかった。以前大倭を訪れた事のある、渋谷の松村幼稚園の山崎寿々子さんの所にお二人をおつれした。山崎さんもお二人喜んで、友人の今井房子さんに電話。おもわぬ再会の喜びの連鎖が拡がった。(章)



日時 平成14年8月24日(土曜日)
午後7時30分より
大倭紫陽花色の西齋庭において『弥祭おどり』が行われます。
今年も子供達の思い出づくりに遊びにおいで下さい。

あんない

- * 月次祭(大倭神宮) 8月6日(火) 大倭神宮にて、午後2時より。
- * 大倭教立開闢宣祭及び大倭神宮月次祭 8月15日(木) 大倭神宮にて、午後2時より。
- * 大倭会主催第四〇五回禊祓 8月11日(日) 午前9時より大倭大本宮境内の清掃神事として行います。
- なお大倭墓地清掃を午前8時から行います。
- * 東光大祭及び祖霊祭 8月23日(金) 旧暦7月15日です。詳しくは7頁をご覧ください。(月次祭と重なっています)
- * 弥祭おどり 8月24日(土) 午後7時30分より。右側をご覧ください。